佳作

「お父さん、今までごめんなさい」

愛知県
尾張旭市立旭小学校 四年
藤井　悠

私の父は、毎日、作業服を着て、仕事に行きます。油圧式フォークリフトのサービスマンです。お客さんから機械が動かなくなったと言われると、父の仕事の始まりです。機械は、油圧式なので、たくさんの油を使います。だから、父が帰ってくると、独特の機械の油の臭いがします。とてもくさいです。お風呂に入っても、手の指紋の中に入りこんでいる油までは、とれません。私はとても嫌でした。

近所のお父さんは、スーツを着て、さわやかな顔で帰ってきます。うらやましかったです。

母が洗濯をしている時も、父の油まみれの作業服があると、別の洗濯機で洗ってほしいと思っていました。

私は、父が大好きです。でも汚れて帰ってくる父は、嫌いでした。

一度だけ、油まみれの父に向って、「くさい」と言った事があります。でも父は、怒らずに、「ごめん、すぐにきれいにするから」と言ってお風呂に行きました。とてもさみしそうな背中をしていました。私は、言ってはいけない事を言ってしまいました。

ある時父は、私の習い事に迎えにきてくれました。作業服を着て、トラックに乗って…。急に、スコールのような大雨が降ってきました。父は私をトラックに乗せると、自分は、機械がぬれないように、荷台にシートをかけだしました。まるで、私の事を抱きあげてくれる時のように、大事そうに…。

私はその時感じました。父の仕事に対する情熱を…。

私は今まで、父の仕事は、かっこわるいと思っていました。私や母の為に、毎日、油まみれになって働いてくれているのに、本当に悪いことをしていました。ごめんなさい。

でも、本当に悪いと思っているけれど、なかなか言えません。恥ずかしいです。だから手紙にしたいと思います。

「お父さん、仕事ごくろう様。くさいと言ってしまった事、後悔しています。ごめんなさい。今度、お父さんの仕事、みせてね。お父さん、背中を流してあげるね。一緒にお風呂に入ろうね。これからも、よろしくお願いします。」